

## 季節は移り川は流れる

真光寺川を清流にする会 山口拓郎  
<http://www.shinkoujigawa.com/>

季節の移り変わりは早い。数十年ぶりの豪雪に下堰親水がすっかり埋まっていたのがつい先日と思えたのに、いつの間にかあたり一面は濃い緑におおわれている。川の流れるは悠々と何も変わりはない。しかし微細に観察すると刻々変化し止まる所をしない。堂前先生のアドバイスは、川と向き合う姿勢としては、あまり水質にこだわらず生態系を重視する方がいいと云うことだった。今年も藻が発生した。その断片が川面をおおうこともある。藻は環境の変化に応じて懸命に生き、種の維持を図っているのであろう。汚い水の環境を作りながら、それに適した藻の発生を嫌悪することは人間の傲慢というものだろう。今年は「真光寺川まつり」を復活することになった。川の現実を受け入れることが、すべてのスタートと考えたからである。このレポートも毎朝の下堰親水での観察にもとずき、川の生態を中心に報告していくことにしたい。

### {3月}

#### 上旬(1日~10日)

厳しい寒気の日々が続く。池には氷が張る日が多い。コイは8~10匹、悠々遊泳。ある朝池にコサギが、カモ2~3羽、セキレイ2~3羽。藻は川底に絨毯状に付着している。

#### 3月6日(木) 一木会

通信の印刷はない。18時、魚民。出席6名。水質のみにこだわらず生態系を重視していくことを話し合う。「多摩川の奇跡」が話題になる。

#### 3月9日(日) 清掃作業

今年最初の清掃日、日差しは暖かいが風は冷たい。16名参加。3ヶ月ぶりなのでゴミが多い。37袋回収する。志田さんがミニ水族館を設置。道を通る人々が覗いていく。

#### 中旬(11日~20日)

寒暖の日が交差する。時々、池にコサギがきて魚をついばむ。コイ8~10匹。カモ常に2羽。ある朝、メジロが2羽、紅梅に、ヤマモモ満開。サクラの蕾固い。紅梅散り始める。藻、ややふくらむ。

#### 3月16日(日) 水生生物調査

生態系を重視する趣旨に添い、専門家宇山さんに依頼して水生生物調査を実施する。広袴公園、能ヶ谷橋上流、下堰親水の3ヶ所。宇山さんが水の中に入って網で水生生物や魚

をすくっていく。水は冷たくきつい作業だ。後日23種類の生物・魚が棲息していたことが報告された。いずれも「汚い水」「大変汚い水」に棲息する生物だった。

#### 下旬(21日~31日)

急に春めいてくる。サクラの蕾がほころび一気に開花する。雪柳も真っ白な花があふれるように満開。コイ7~11匹、元気に遊泳。小魚の波紋が見られる。セキレイ2~3羽。ある日、鵜が橋の下に。藻ますますふくらむ、汚い断片も漂う。

#### 3月24日(月) 鶴三小卒業式

9時に学校へ。91名がそれぞれ夢を抱いて巣立っていった。谷川俊太郎作詞、山本直純作曲の校歌は明るくすばらしい。

### {4月}

#### 上旬(1日~10日)

春爛漫。サクラ満開、雪柳満開。コイ9~12匹内2匹の側面が白い疥癬のようなものに覆われているのが気がかり。カモ2、セキレイ2常に軽快。藻、繁茂川底に張りつく。

4月10日(木) 通信を印刷、一木会旅行のため出席できない。一木会では今年「真光寺川まつり」を開催する方向で検討することが決まった由。

#### 中旬(11日~20日)

サクラ散る。雪柳散り始める。ハナミズキ開花。コイ、繁殖期に入ったか浅瀬でメスを争って騒がしい。水面に多くのブヨが舞うようになる。藻、ますます繁茂し川底にべったり、きたない断片が浮遊する。

#### 4月13日(日) 清掃作業

快晴、気温が上がり清掃日和。参加15名。志田さんがミニ水族館を設置する。大きなドジョウが人気があり道行く人が熱心に覗きこんでいた。エコネットの杉山さんが応援して下さり助かる。ゴミ22袋。作業後、いちよう会館で打ち合わせ。機関紙名称を「真光寺川里親通信」から「真光寺川通信」に変更することになる。

4月17日(木) 鶴三小に報告書持参  
午後、瀬川さんと一語に鶴三小へ「町田エコフェスタ2013報告書」を届ける。宇都宮副校長は小山中央小へ栄転され新たに本村副校長が赴任された由。毎年4年生が参加、発表をしていることをお話する。貝原校長が出てこられて「バスがなくリサイクルセンターへ行くのに難渋しており、父兄から苦情が出ている。今年の参加は難しそうだ」とのことだった。10年近く続き恒例となっていたのに残念だ。



広袴公園のカルガモ親子  
(野田さん撮影)

#### 下旬(21日~30日)

雪柳すっかり散る。ハナミズキ満開。サツキ咲き始める。フジ花房を垂れる。コイ、8~10匹、繁殖期を過ぎたか落ち着く。セキレイ毎朝。ブヨますます増える。藻、勢い盛ん、綿状になり漂う。

4月27日(日) 広袴公園にアオコ発生  
朝、野田さんに会う。広袴公園が一夜にしてアオコに覆われてしまった由。後日、写真が送られてきた。

### {5月}

#### 上旬(1日~10日)

ゴールデンウィークに入り快晴が続く。新緑が美しい。フジ散り始める。サツキ満開。池にキショウブが咲き始める。コイ、まだ繁殖期が終わっていないのか騒がしい。ブヨ、アメンボ多くみられる。藻、繁殖盛ん、きたない断片が漂う。

#### 5月8日(木) 一木会開催

奇数月なので「真光寺通信」の発行はない。18時から魚民で開催、5名出席する。「真光寺川まつり」「市民大学・体験講座」等について打合せ。

#### 中旬(11日~20日)

いきなり夏の季節になる。連日、夏日が続く。キショウブ満開。トベラ咲き始める。コイ落ち着く。ブト飛び交う。藻、綿状に膨らむ。

#### 5月11日(日) 清掃作業

快晴、真夏日。気温ぐんぐん揚がる。参加19名。16袋。樋口さん、新たに参加される。新戦力としてこころ強い。オイカワが多く泳いでいる。志田さんのミニ水族館、子どもたちに人気がある。

#### 下旬(21日~31日)

異常気象か暑い日が続く。トベラ満開、地味な植栽だが白い花は美しい。側道のタチアオイも満開。池のスレソンの蕾がふくらむ。キショウブ散り始める。コイ5~9悠々遊泳。カルガモ1羽の雛を連れている、例年は10羽近く孵るのだが、スズメ数羽。ブト飛び交う。アメンボ多数。藻、川底一面に張りついている。(この項おわり)